＜先週の説教から＞

『詩編㊾―私とあなたの魂が大事！』

武田真治牧師

詩編　49：1～21　マルコ福音書　8：31～38

毎月末には『詩編』を読み進めています。詩編の冒頭の多くは「神よ、わたしを憐れんでください」という祈りの言葉や「主に向かって喜び歌おう」等の讃美の言葉から始まっていますが、この詩編49編の書き出しは他の詩編と大きく異なっています。即ち「諸国の民よ、これを聞け。この世に住む者は皆、耳を傾けよ」です。これは旧約聖書の『イザヤ書』や『ミカ書』などの預言書の書き出しに似ています。

まさにこの詩人は、自分が神様から示された“み言葉”を会衆に伝えようとしていると言い得ます。今で言えば、この《説教》のようにです。確かに、当時の神殿や特にユダヤ教の会堂（シナゴーグ）での礼拝の中にも《説教》に位置するようなプログラムがありました（＝イエス様が故郷ナザレの会堂でイザヤ書を通して語られています）。ここにも「わたしの口は知恵を語り」とあるように。では、何を、彼は会衆に語り掛けているのでしょうか？

その最初は「どうして恐れることがあろうか、財宝を頼みとし、富の力を誇る者を」です。これは、この世では、お金持ちやそれを使って権力を握っている者たちが我がもの顔で生きている状況が前提とされていることが分かります。それ故、信仰を持って生きる私たちであっても「（ついつい）顔色をうかがってしまう」弱さ・愚かさを持っていることをこの詩人自身も感じているのです。しかし「（彼らを）恐れることはない」と語り掛けているのです。なぜなら「神に対して、人は兄弟（＝家族や愛する者）をも贖いえない。神に身代金を払うことはできない（＝お金で解決することは出来ない）」からだと語るのです。どうでしょうか？

確かに私たちが他人に対して犯した悪事なら、必死にお詫びをすればなんとかお金で代償することは出来るでしょう。しかし神様に対する悪事はどうしたら代償できるのでしょうか？裁かれないように何を代わりに差し出せば、赦してもらえるのでしょうか？それは誰にも出来ないのだと！

その上で、この詩人が語り掛ける言葉が「しかし、神はわたしの魂を贖い、陰府の手から取り上げてくださる」です。これは何を言っているのかと申しますと、人からは何も出来ないけれども、“神様の方から”「（私たちの）魂を贖い、（死者の国からその魂を）取り上げてくださる」ならば、私たちは“裁きに落ちない＝再び生きる”ことが可能になるのだと言われているのです。この言葉こそ信仰者にとって、イエス様による《十字架の贖い＝神様による罪の赦し》を指し示している『預言』の言葉そのものではないでしょうか？

この詩編の最後は「（贖われることがないと）永遠に光を見ることがない」と終わっています。しかし、私たちはイエス様にこそ、その“光を見る”ことが出来るのです。たとえ死んだとしてもそこで終わらない。死者の国から天のみ国へと《蘇らせてくださる》希望が与えられているのです！.

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．3月5日（水）20：00
　　Ⅱ．3月6日（木）10：30
聖書研究：　ローマの信徒への手紙
祈祷主題：　レント・世界祈祷日を覚えて
担当者：　（水）山中　（木）黒川
祈りに覚える人：　鈴木さん　須田さん
＊世界祈祷日　3月8日（土）13：30～

【教勢報告】

主日礼拝　男22　女46　計68
祈祷会　Ⅰ.男4　女1　計5　Ⅱ.男1　女7　計8
日曜学校　幼稚科6　小中科5　計11

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【次週礼拝】　3月　9日（日）

聖　書：出エジプト記　２４：９～１１
　　ルカによる福音書　５：２７～３２
説　教：「ルカ㊴―医者が必要なのは病気の人」
　　武田　真治　牧　師
讃美歌：２９７(1)、３２、３０４、２９４、４５３、
　　９２(1)

【次週当番表】

司式:金刺長老　奏楽:勝村　礼拝:齋藤長老
献金：岩井　岩井　受付：鈴木　橋本
会堂準備：飯島　岡本　金刺　中村
　　森本
看板：岩佐　週報：金刺　お花：茨木

【次週集会予定】

礼拝前：・聖書輪読会　・求道者会
礼拝後：・お茶の会　・牧師と語る会　・聖歌隊練習
　　・壮年/婦人/ダビデ 各会

週　報

2024年度　教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

２０２５年　３月　２日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**

牧　師　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/